

駿河台大学総合研究所 第2回教養文化研究部門シンポジウム報告

格差社会のこれから

— バーチャルで格差を埋める時代に —

2022年10月18日（7405教室）

シンポジスト 山田 昌弘（中央大学文学部教授）
指定討論者 渡辺 裕子（駿河台大学経済経営学部教授）
葉 紅（駿河台大学グローバル教育センター教授）
企画・司会 櫻坂 英子（駿河台大学心理学部教授）
技術サポート 信太 直己（駿河台大学スポーツ科学部准教授）

2022年10月18日4時限目（15:00～16:30）に、駿河台大学総合研究所教養文化研究部門主催の第2回シンポジウム「格差社会のこれから」が開催されました。本年度は本学の7405教室とZoomを併用してオンラインでの参加も可能なように準備しました。シンポジウムには本学の教員、学生、そして一般の方々を含めて多数の参加がありました。

シンポジウムは、駿河台大学総合研究所教養文化研究部門長の櫻坂英子心理学部教授の司会により、中央大学文学部の山田昌弘教授のご講演が行われました。山田教授は、家族社会学・愛情やお金（経済）を切り口として、親子・夫婦・恋人などの家族における人間関係を社会的に読み解く実証的な試みを行うなかで「パラサイト・シングル」や「婚活」という言葉を発案した社会学者としても知られています。ご講演のなかで山田教授は平成以後、4つの負のトレンドの循環があったこと、その背景としてのものづくりに過剰に適応した日本が旧来システムへ固執したことを指摘されました。そして、格差は社会において古くから存在するものであるが、戦後の日本では経済成長によって格差を克服できるという「希望」が存在していたことを説明されました。しかし、現代においては、グローバル化と社会構造の変化が進行する格差が次第に拡大し、令和以降、日本は格差固定社会となってしまった。そしてコロナ

禍になりさらに日本社会における格差が顕現化したことにも言及されました。

そして、現実社会で乗り越えられない格差は、ゲーム、疑似家族、推しなどのバーチャルな世界で埋められようとしたことを指摘し、日本は「幸せに衰退する時代」に入ったと述べられました。

指定討論者である渡辺裕子経済経営学部教授と葉紅グローバル教育センター教授が、順に山田昌弘教授によるご講演の内容について発言されました。

指定討論者 渡辺 裕子

1. 山田先生が問題とする「格差」

今回は多くの学生の皆さんも参加しているので、始めに講演のポイントを簡単に整理します。1つめに、山田先生の格差は「格差意識」を含めていることが特徴といえます。2つめに、単に経済格差を指すのではなく、とくに、「①正規雇用で安定した収入を得ることができる人 VS 非正規雇用の人」の格差と、「②家族を持つことができる人 VS 結婚できない人」の格差を問題にしています。①については、最近ではコロナ禍にあっても正規雇用の方は守られていたのに対して、非正規雇用の方は多くが職を失いました。②については、親同居未婚者の自立と老親の介護、家族がいない人の無縁死などが、将来の大問題につながることに警鐘を鳴らしています。

2. 格差の救いは何か

令和の時代に入って、人々は疑似仕事（ゲームなど）や疑似家族（ペット、推しなど）に救いを求めるようになったと指摘されました。そして最後に、バーチャルな世界が救いになるのかをフロアに問いかけられました。明言は避けられましたが、山田先生の回答は「否」でしょう。今回のシンポジウムでは格差対策は中心的なテーマではなく、現状を認識してもらうことがねらいだと思います。しかし、リアルな社会での雇用と結婚の問題への解決が不可欠だと、理解できます。

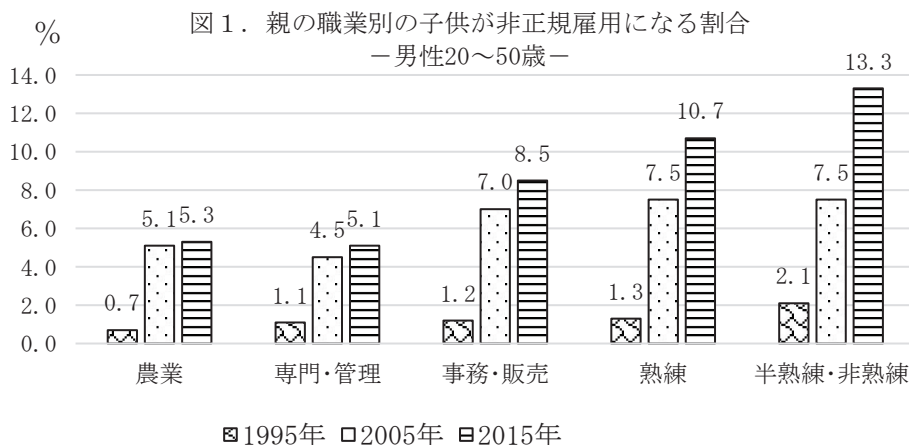
3. 雇用の問題

図1は、私の社会学の授業で取り上げたことのあるデータです。子どもが非正規になる割合は、親の職業による格差が拡大しています。20～50歳の男性が非正規になる割合は1995年ではわずか1

～2%でしたが、2005年では大きく増加しました。その後の2015年ではホワイトカラーでは増加幅はそれほど大きくはありませんでしたが、半熟練・非熟練などのブルーカラーを親に持っている場合には、非正規雇用が一層進みました。

このデータに対して私の授業では、「自分の親はブルーカラーだから、自分も将来に希望が持てない」などの感想が多くみられました。しかし、「世の中は不公平だから、変えていく必要がある。」などの社会的な関心は薄く、諦めが強いといえます。非正規雇用は時代のニーズから生まれたもので、その形態自体をなくすことはできないでしょう。しかし、学生の皆さんにとって、非正規雇用への処遇（例、同一労働・同一賃金）のあり方について考えるきっかけとなればと思います。

4. 結婚の問題



内藤準 (2018) より

表1 駿河台大学における交際の実態

調査年度 (回答者数)	2015 (172)	2016 (219)	2019 (449)	2021 (361)	2022 (435)
相手がいる	26.2	26.2	27.3	26.3	23.0
いないので欲しい	41.5	42.8	46.0	46.0	46.3
いないが欲しくない	32.3	31.0	26.7	27.7	30.7
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

※経済経営学部「マーケティング・リサーチ演習」の実習より

結婚の問題については、婚姻の減少につながる交際の減少について考える必要があります。表1は私が担当する「マーケティング・リサーチ演習」の実習から得られた、2015～2022年の経済経営学部生の交際の実態です。2015～2021年までは「つきあっている相手がいる」という回答は26.2～27.2%で驚くほど安定していましたが、2022年は23.0%と減少しました。コロナ禍で異性などとのキャンパスで直接に接する機会の減少がもたらした、恋愛停止状態かもしれません。また、本学の結果は中期的な動向ですが、長期的に日本性教育協会の調査結果をみてもデート経験率などは大幅に減少しています。

対策として今日では婚活や結婚の支援がなされていますが、山田先生は「婚活をしても、相手を選べない、選ばれない状況にある」という重要な指摘をされました。相手の経済力などへのこだわりをやめるといふ、個人の意識変革も必要です。さらに社会の中で、女性が生きがいとなる仕事を獲得できる機会を作ることが、重要でしょう。

5. 格差社会を変革するのは誰なのか

格差社会で底に近い位置にある人は、諦めの気持が強い。他方で、「豊かに暮らしている人はそれ(格差)を問題にすることはない」と、山田先生は述べられました。それでは格差社会を変革する人は誰なのか。制度的な仕組みづくりはもちろん必要ですが、豊かに暮らしている人々の中には、自分自身のことだけでなく、格差を問題として受けとめている人がいるのではないのでしょうか。自分の恵まれた環境への自覚や恥じらい、社会的弱者を支援するNPO法人やボランティアなどの存在を信じたいと思います。

指定討論者 葉 紅

今回の講演では昭和、平成、そして令和の時代の格差の特徴および格差が形成される社会構造を分析しています。格差はどんな社会形態においても、どの時代にも必ず存在している、言い換えれば格差はなくならないことを再確認しました。重要なのは、

格差にどのように向き合うか、格差があることを踏まえた上でどのように新しい社会を作っていくかが課題であるという講演でした。

講演のテーマに関連付けて中国の状況について少し触れてみます。

1. 格差是正道半ば

中国でも格差社会に嫌気がさした若者の間から、「寝そべり族」が出現しはじめた一方、よい教育を受けさせさえすれば現状は変えられると考える人が多数います。「努力すれば現状は変えられる」、その点において日本の昭和の頃とよく似ているとすることができます。

昨今、日本の若者の間で「親ガチャ」という言葉で、自らが生まれた家庭の格差に自分の努力ではどうにもならないと表現しているのですが、周知の通り中国にも出生地格差は当然存在しています。しかし、教育を受けることによって変えたい、変えられると考えている点ではいまの日本と異なります。

講演では、欧米に比べ東アジアにおいて、子への投資は親の生きがいという視点がありました。中国もまさに子どもをよい大学へ進学させることを教育投資と考えています。親が子に教育投資をする競争が過熱するあまり、生後間もない時からの早期教育、学習塾が盛んで、子どもたちは習い事、宿題に追われ、ゆとりがなくなっています。SNS上で、子どもが親の厳しいスケジュール管理、良い成績をとらなければいけないプレッシャーに耐えられず、苦しい訴えが時々見られます。社会問題となっています。あまりに早期教育や過度な競争が激しいので、2021年頃、国が塾の民間経営を禁止したと報じられました。

2. 近年の経済発展にリンクした教育機会の増加

中国では、教育格差の問題は依然としてありますが、1990年代からコロナ前まで、経済発展と人々の生活向上願望のニーズがマッチし、教育の機会が増えた30年間であったと言えます。

教育投資と言っても、中国は以前から厳格な戸籍制度によって管理されていることも周知の事実で、

それは個人の力ではどうにもできないことでした。中国の住宅は1949年以降、基本的に国の所有で、個人にごく安い値段で貸すという形でした。1980年代になって政策の変更に伴い、土地は国有である点は変わらないが、住居の個人所有が可能になり、売買できるようになりました。

それまで社宅のような仕組みで貸していた家をキャリアの年数、職階などに応じて換算した価格で個人に買い取ってもらいました。当初個人所有は認めても、売買は不可でしたが、後に一部を除き許されるようになりました。地方や農村部の人には依然として北京や上海などの大都市の戸籍を手に入れるのが容易ではありませんが、地方都市の住宅を購入し、家族が移り住んだ場合、その地方都市の戸籍を取得できるようになりました。都市での教育を受けられるようになり、進学が増えたわけです。

モデルとしては、農村出身の若夫婦が都市で働き、小さい子どもの面倒を祖父母に見てもらい、まとまったお金ができると、地方都市の住宅を入手し一家で移り住む形です。こうして出稼ぎにきた農民工が地方都市で家を買うことができるようになる現状があります。

このように住宅制度の改変が経済にリンクした動きとなり、中国経済を牽引した側面があります。

3. 中国の結婚格差の現状

2021年あたりから、3人目の子どもを生むことを政府が奨励しはじめましたが、その前に結婚の問題があります。中国では、これまで共働きが標準家庭の形として70年近く続きました。そのため、女性の社会での活躍、男性との出会い、またお見合いの慣習がもともとあったことから、結婚はそれほど難しい問題ではありませんでした。しかし、ここ20年来、巨額の結納金、結婚前から男性側に持ち家、自家用車の保有を求める風潮が一般的となり、結婚できない若い男性が増えました。世間体のために進学し結婚するというプレッシャーに耐え切れず、努力を放棄してしまう、「寝そべり族」、「すねかじり族」が現れたのはそうした背景があったわけです。

一方、前述の教育の機会に恵まれたもともとは農

村出身の若者も恋愛、結婚などの時期にやはり生育環境の違いで意識の格差に直面するようになり、結婚しても婚姻が続かなくなるケースが多く出て、リアルな一側面となっています。

4. バーチャル文化 経済にプラス

日本の影響を受け、中国にもバーチャルビジネス展開の動きが見られます。一例として、メイド喫茶を真似て「女僕餐厅」(メイドレストラン)がオープンされ、本格的な日本料理を提供し、サブカルチャーとしての日本のアニメに触れる機会を作る店が出始めました。

世界的にグローバル化が進み、特にIT産業に突き進む中国では、諸外国から学びつつ、独自の形で発展させる勢いがあります。ビジネス最優先ではありませんが、バーチャル文化がビジネスモデルを通して他者を知るきっかけになる側面を見せてくれます。令和のバーチャルが格差を埋めてくれるかどうかは、今後見極めることになりますが、暮らす地域や国が異なってもバーチャルでつながる若者がさらに増えることが予想されます。そのような時代に私たちは生きていることを再認識しました。

駿河台大学・総合研究所教養文化研究所シンポジウム
2022年10月18日 15:00ー

格差のこれから

ー バーチャルで格差を埋める時代に

山田昌弘 Masahiro Yamada

(中央大学・文学部・教授)

1

0. 自己紹介

山田昌弘 1957年生まれ、64歳

家族社会学・研究者、東京大学大学院修了、
東京学芸大学教授を経て、2008年より中央大学文学部教授
パラサイトシングル、格差社会、婚活 の名付け親

研究領域 家族(結婚、恋愛) ジェンダー、若者を「お金」と「愛情」
の視点から研究している

著書に『希望格差社会』(筑摩書房)『日本は少子化対策になぜ失敗したのか』
(光文社新書)『新型格差社会』(朝日新書)『少子社会日本』(岩波新書)など

公職 内閣府男女共同参画会議民間議員、東京都社会福祉審議会委員
内閣府人生100年時代の結婚・家族を考える研究会・座長など

読売新聞、「人生案内」回答者 2008年ー

2

2

0. はじめに

格差問題

- * 単に収入の多寡の問題ではない。
年収格差が何十万あるからそれを何万に縮めればよいという問題ではない
- * 貧困問題ではない
貧困を解消すれば(食えれば)解決するというものではない
- * **社会意識(心理)の問題**である。(時間も含めた)
格差があっても、自分と違った立場にいる人と思えれば、問題にならない
今貧困であっても、将来、豊かになる見通しがあれば、問題にならない
- * 問題になるのは、
同じように努力しているのに、差がある、認めて貰えない
今それなりに生活できていても、将来転落してしまう

3

3

0. はじめに 講演目次

1. 平成日本の四つの負のトレンド
2. 世界経済の構造転換と四つの負のトレンドの発生
3. 生活者視点から「格差」を考える。
4. 希望格差から親ガチャへ、格差の過去と現在
5. バーチャルで格差を埋める時代に
6. 江戸時代化する？令和ニッポン
7. 幸せに衰退する日本

4

4

1. 平成日本の四つの負のトレンド

■ 平成時代（1989-2019） 日本で起きた負のトレンド

- ① 少子高齢化（人口減少始まる、高齢化率28.7%-2020年世界最高）
- ② 経済停滞（Japan as NO1から世界競争力34位-2020年）
- ③ 男女共同参画の停滞（ジェンダーギャップ指数世界120位-2020年）
- ④ 格差社会の進行（正規・非正規格差、家族形成格差、希望格差、親ガチャ）

この4つのトレンドは、相互に関連している。

* 高度成長期に形成、バブル期に確立した日本特有の「制度、慣行、意識」への固執が原因

5

5

1. 平成日本の四つの負のトレンド

④ 格差社会の進展

- ① 少子高齢化 ② 経済の停滞 ③ 男女共同参画の停滞

「平均値」— 格差拡大の結果であることを見逃してはならない

- ① 「結婚して二人子どもを育ててる人」「結婚してない人」の格差
未婚者の増大が少子化の主因

- ② 「正規雇用」と「非正規雇用」の収入待遇格差、
「グローバル企業」と「伝統的企業」の生産性格差
派遣、契約社員、フリーターの増大、地方・伝統的企業の停滞

- ③ 「活躍する女性」と「差別される女性」の格差

正規雇用で子どもを産み育てる女性 と 今までどおり昇進できない
で低収入に留まる女性双方の増大

6

6

1. 平成日本の四つの負のトレンド

平成時代、社会的によくなった指標

① 凶悪犯罪や交通事故死の大幅な減少(より安全な社会へ)

- ・ 殺人事件 1990年 774人 2020年 374人
 - ・ 交通事故死 1990年 11227人 2020年 2839人
- (少年犯罪、校内暴力は減少 不登校、ひきこもり100万人?、いじめ自殺は増大)
(無敵の人による無差別犯罪が目立ち、高齢者犯罪は増加傾向だが)

② マイノリティや暴力被害者に優しい社会へ

障害者やLGBTsへの理解と社会参加が進み、セクハラやDVに厳しい社会

- ・ 障害者雇用促進法 1987年 名称変更(身体障害以外にも拡大)
- ・ 国際パラリンピック協会 1989年 設立
- ・ セクハラ裁判 1992年 被害者・全面勝訴

7

7

2. 世界経済の構造転換と四つの負のトレンドの発生

4つの負のトレンドが日本で発生した最大要因

* 「戦後から高度成長期に形成され、バブル期までに確立した日本社会のシステム—制度、慣行、意識」への固執

* このシステム、「工業社会」に高度に適応

① **日本的雇用慣行** 新卒一括採用、男性の終身雇用、年功序列、社内トレーニング、職場での女性差別、非正規雇用者差別

② **性別役割分業型家族** 男性が主に生計を支え、女性が家事育児で豊かな生活を送る

* 工業時代 男性が力任せにモノを大量に作り、大量に世界に売りまくることによって利益がでる時代

8

8

2. 世界経済の構造転換と四つの負のトレンドの発生

- * 経済社会の構造転換 1980頃から
脱工業社会 (Post-Industrial society)、グローバル化の出現
新しい経済(ニューエコノミー) 工業からサービス業への転換
情報産業、(国際)金融、文化産業 などが利益の主役に
グローバル化 製品だけでなく、資本(工場)、情報、人材の国際移動
柔軟な雇用や女性の活躍、人材のグローバル化が不可欠
欧米や新興国(特に東アジア) 徐々に適応していった
- * 日本社会システム あまりに工業社会に過剰適応
日本的雇用慣行、性別役割分業家族への固執が続く
ものづくりでは利益がでない時代へ

9

9

3. 生活者視点から「格差」を考える。

- * 格差 「経済格差」(ここでは生活水準、← 収入、資産)
いつの時代にもあり、将来もありつづける。
豊かに暮らしている人 それを問題にすることはない。
豊かでない人が自分の状態をどのように考え、行動するのか
(「親が豊かなら子どもも豊かなで当然だ、それを問題にするのは、おまえが貧乏に生まれたからだろう」という趣旨の匿名の手紙をもらったことがある)

10

10

3. 生活者視点から「格差」を考える。

前近代社会 身分社会

生まれによって、職業や結婚相手、つまりは、生涯の生活水準が決まってしまう社会。

* 豊かでない人「来世」で格差を埋める

宗教 来世での平等を約束

キリスト教、イスラム教 天国に行ける

ヒンズー教、仏教 生まれ変わり

真面目に生き、貧しさに耐えていれば、来世豊かな生活ができる
(お金持ちも 不摂生をすれば、来世地獄へ 節制が求められる)

平均寿命 短く、死と隣り合わせの生活 来世の方が重要

11

11

3. 生活者視点から「格差」を考える。

近代社会の矛盾

生まれながらにして平等 ←→ 現実には不平等(格差)がある

社会主義・共産主義 革命により結果の平等の徹底を目指す→失敗

(社会主義政党が、労働者の不満を吸収し、希望に変えていた)

自由主義

「機会均等の政策」、「再配分政策」がとられる。

原理的に言えば、機会が均等であれば、格差は努力や能力

不当に大きい格差 税金と福祉で埋める。

* 希望が必要

今は貧しくても、努力すれば将来報われる — 希望の源

自分は無理でも、頑張って子育てすれば、子どもが豊かな生活になれる

12

12

4. 希望格差から親ガチャへ 格差の過去と現在

格差の戦後史

- ① 戦後の昭和期 中流化社会
格差が乗り越えられると信じられた社会
- ② 平成期 格差拡大社会
希望格差が進行した時代
- ③ 令和以降? 格差固定社会
バーチャルで格差を埋める時代
江戸時代化

13

13

4. 希望格差から親ガチャへ 格差の過去と現在

- ① 戦後の昭和期(1945-1989) 中流化社会
「格差が乗り越えられると信じられた時代」
敗戦後 ほとんどの人が貧しい中で出発 機会の平等が確保
高度成長期 工業化の時代
* 若年男性の収入 安定して上昇 ← 経済成長
サラリーマン化 ← 日本的労働慣行定着
* 大多数が結婚して離婚しない
性別役割分業家族(戦後型家族モデル)
結婚して、豊かな生活を築くという希望がもて、実現

14

14

4. 希望格差から親ガチャへ 格差の過去と現在

① 戦後の昭和期 中流化社会

「格差が乗り越えられると信じられた社会」

* 今、豊かでない人、将来「追いつく」と思う事ができた。
家電製品ー 新製品、今すぐ買えなくても、給料が増えれば
住宅双六ー アパートから出発して、将来は一戸建て
自家用車ー 今は軽でも、いつかは「クラニー」「セドリーー」

もちろん、追いついたときには、富裕層は先を走っているが、それでもいつかは追いつくと改めて思う事ができた。

* 前提

全ての男性の給料が上昇するという期待が共有

15

15

4. 希望格差から親ガチャへ 格差の過去と現在

② 平成期 格差拡大社会

ニューエコノミー、グローバル化の進行

全ての労働者を正規雇用できない

大量の流動労働者の需要が生じる — 非正規雇用者の大量発生

しかし

「日本的雇用慣行」、「性別役割分業型家族」を守ろうとした。

その結果、分断が生じる これが格差の源

仕事格差 日本的雇用慣行に守られる人 vs 非正規労働者

家族格差 戦後型家族が形成できる人 vs 未婚に留まる人(多数は親同居)

16

16

4. 希望格差から親ガチャへ 格差の過去と現在

② 平成期 格差拡大社会

希望格差の進行 世代間、世代内の分断の進行

世代間格差 中高年世代(守られた世代) VS 若年世代

世代内格差 若年世代内部の格差の拡大

若者 正規雇用者、正規雇用者と結婚できた女性
従来通りの豊かな家族築き、将来に希望がもてる。

正規雇用でない若者、正規雇用者と結婚できない若年女性

将来に希望がもてない—努力しても豊かな生活を築く見通しが無い

希望格差の発生

17

17

4. 希望格差から親ガチャへ 格差の過去と現在

② 平成期 就活、婚活に追い込まれる若者

* 「就活」 1990年代に作られた言葉

日本的雇用慣行の内側に入れば、一生安泰

2000年位から、転職や起業志望の新入社員一貫して低下

* 「婚活」 2007年に私が造語

安定収入男性との結婚を求めるテクニックに変質

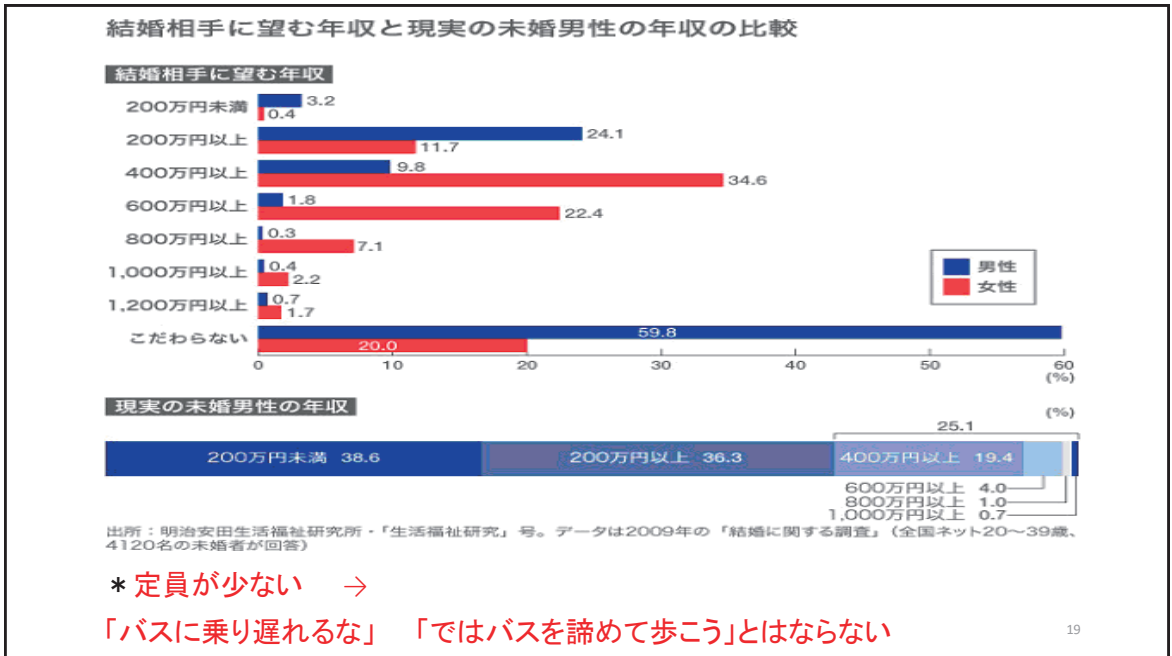
収入の安定した男性には限りがある。

*** 全員が正規雇用になったり、正規雇用男性と結婚するのは無理**

かなりの若者が、正社員になれないし、結婚できない **少子化に**

18

18



19

4. 希望格差から親ガチャへ 格差の過去と現在

② 平成期 分断され、保守化する若者たち
 日本の若者 社会システムを変えることができないと思っている。
 （国際比較 2018年調査 社会問題に関与したい 著しく低い
 日本42.3%、ドイツ75.5%、アメリカ72.6%、韓国68.4%）
 「日本的労働慣行」（新卒一括採用、年功序列）
 「戦後家族モデル」（性別役割分業型家族 夫が家計支える）
 若者も固執せざるを得ない → 「就活」、「婚活」

就活・婚活に成功する人と失敗する人の格差 分断

20

4. 希望格差から親ガチャへ 格差の過去と現在

② 平成期 パラサイト・シングルの発生と変質

* 1990年代 パラサイト・シングルの発生

1997年 「パラサイト・シングル」を造語

自立しようと思えばできるのに、親と同居して「リッチ」な生活をしている若者(多くは正規雇用)

親世代(1940-50年生まれ) 戦後システムで最も安定した世代

* 2000年代 パラサイト・シングルの変質

1997年 アジア金融危機 1998年 山一証券、拓銀破綻 —

自立したくてもできない若者が増大

パラサイトさせたくてもできない親が増大

21

21

4. 希望格差から親ガチャへ 格差の過去と現在

③ 令和以降? 格差固定社会

平成初期(1990年代) 格差 若者

平成を通じて、分断された若者が加齢し、中高年に

• 親同居未婚者の中高年化 20年後の最大の社会問題(80-50問題)

2015年 35-44歳の中年親同居未婚者、約300万人

今はよいけれども——、親が亡くなった後どうなるのか?

誰も分からない — 今まで前例がないから

経済的問題 親なき後の自立生活困難になる人の増大(女性多い)

心理的問題 孤立(世間体社会—主に男性)

無縁死の増大(現在年3万人程度 2050年ごろには年30万人)

将来に絶望する独身者の増大(誰も家族がいない) 「無敵の人」

22

22

4. 希望格差から親ガチャへ 格差の過去と現在

- 50代の婚姻状況 2020年国勢調査 (不詳は案分処理されている)

	男性			女性		
	有配偶率	未婚率	離死別率	有配偶率	未婚率	離死別率
50-54歳	65.5	26.6	7.9	70.2	16.5	13.4
55-59歳	69.2	21.6	9.2	72.3	12.2	15.5
	有配偶者	未婚者	離死別者	有配偶者	未婚者	離死別者
50-54歳	288万	117万	35万	305万	71万	58万
55-59歳	273万	86万	37万	287万	49万	61万

23

23

4. 希望格差から親ガチャへ 格差の過去と現在

- 50代独身者(未婚離死別含む)調査(山田科研費、2022年2月ネットサンプル 1126ケース)

- 「将来、高齢になって下記のような不安がありますか」の回答 (全体、%)

	大いにある	ある	あまりない	ない
1. 経済的に十分な生活ができなくなる	45.6	31.5	14.3	9.6
2. 十分な介護が受けられなくなる	42.2	36.9	12.9	8.0
3. 孤立して寂しい思いをする	34.2	34.3	20.4	11.1
4. 孤独死してしまう	41.7	33.0	15.7	9.5

特に、子どもがいない女性、低収入の男性の不安が大きい。

24

24

4. 希望格差から親ガチャへ 格差の過去と現在

③ 令和以降? 格差固定社会

「親ガチャ」「太い親、細い親」

若者の親(50代)に格差が広がってきた。

* その結果、親にゆとりのあるものと、親にゆとりのない若者の間に格差が出現する 格差の「遺伝」が始まる

* 大学に行きたくても行けない

* ヤングケアラー

収入の少ない親は共働き、ひとり親 親の親の介護のしわ寄せ

25

25

4. 希望格差から親ガチャへ 格差の過去と現在

③ 令和以降? 格差固定社会

* 家庭の教育力格差

新しい経済 — 非認知的能力(教養、英語力、コミュ力、デジタル力)が重要

文化資本の多寡 仕事で英語を使う親、家でパソコンを使う親

そうでない親の元で育つと単なる学習では逆転できない

親のインテリジェンスによって格差

* 若者、社会生活をスタートする段階で格差がついている社会に

26

26

4. 希望格差から親ガチャへ 格差の過去と現在

③ 令和以降？ 格差固定社会

世代内でも世代間でも、努力では格差が縮まらない状況の広がり
背景

* 格差上位親は、子どもにその地位を引き継がせたいという思い
→ 欧米に比べ東アジアでは、子どもへの投資が親の生きがい

* 経済が拡大どころか縮小する
→ よい職の数、よい結婚相手の数(女性にとって)減少する。
→ 欧米、移民が常に下に入ってくるのに、日本はない

* 日本社会格差固定へ
「親ガチャ」諦めの言葉

27

27

4. 希望格差から親ガチャへ 格差の過去と現在

③ 令和以降？ 格差固定社会

コロナ禍による格差の顕在化、深刻化

雇用格差 正規雇用者は守られ、非正規雇用者は見捨てられる

例 正社員ーリモート、非正規雇用ー出社という会社

例 打撃を受けた飲食、観光業 非正規女性を多く雇用

家族格差 少子化、未婚化の更なる進行

2021年 出生数81万、婚姻数52万 戦後最低を更新中

経済不安から「戦後型家族」を形成できない

教育格差 リモート、自宅学習の増加

親のインテリジェンスによる格差 拡大

(学校に行っている間の平等も破壊)

28

28

5. バーチャルで格差を埋める時代に

* リアルな世界で、豊かな生活への希望がもてない人々の増大
「格差縮小」を望めない人々はどのように対処するのか？

前近代社会 ー 宗教という救い

現世の格差は、来世で解消される

近代社会 ー 宗教が信じられない時代

* 欧米 没落する中産階級、見捨てられた人々
強力なカリスマ(トランプ現象、プーチン現象)に託す
移民排斥、福祉反対、マイノリティ差別で憂さを晴らす
原理主義的宗教

29

29

5. バーチャルで格差を埋める時代に

* リアルな世界で、豊かな生活への希望がもてない人々の増大
日本 強力なカリスマは現れない、原理主義という文化がない
社会を変革できると思っていない

* **バーチャル世界に救いを求める人々の増大**

疑似仕事 パチンコ、ゲーム、マニア(オタク) ー

疑似家族 ペット、推し、キャバクラ、風俗 ー

30

30

5. バーチャルで格差を埋める時代に

- * 疑似仕事 パチンコ、ゲーム、マニア(オタク、推し) —
現実の仕事、努力評価されない(非正規雇用、昇進のない仕事)
仮の世界だと思えば耐えられる。
パチンコ、ゲーム、マニア(オタク) — 疑似仕事
努力が報われる世界にいることができる
例、ゲーセンに集う若者「仕事はつまらない、ここにいれば仲間が
いて、高得点出すとほめてくれる。」
ネット化によって、「仮想空間」がますます現実 に似てくる
仮想空間に希望を見いだす人々の増大 — 現実世界での諦め

31

31

5. バーチャルで格差を埋める時代に

- * 疑似家族(疑似恋愛) ペット、推し、キャバクラ、風俗 —
家族、親密な関係 — 自分を大切にし、必要と思う関係
現実に家族がいない人、家族がいても大切にされない体験が増大
 - ① ペット 自分を必要に思ってくれる
 - ② 推し(アイドル、アスリートからアニメのキャラクター)
自分が大切にしたい存在
 - ③ 親密性の市場調達(スナック、キャバクラ、風俗、メイドカフェ)
お金を払って親密性や性満足を購入(結婚するより安くつく)
- 疑似親密性によって、親密性を体験する人の増大(もはや疑似とは言えないかも知れない)**

32

32

5. バーチャルで格差を埋める時代に

* 平成時代、安全で平和な社会の秘密

日本、経済成長しない、給料が上がらない、将来に希望がもてない。
 それでも、革命も暴動もデモも起こらず、犯罪率も低下している理由

バーチャル世界で満足する人の増大、
 バーチャル世界を作ることに日本人が長けている、慣れている。

パチンコ店 9千店(2020年)(東北、九州に多い)

ゲーム産業、アニメ産業 日本の輸出産業

キャバクラ店 5万5千店

猫カフェ、メイドカフェ 全世界、特にアジアに広がる

33

33

表 明治安田生命生活福祉研究所2017年実施「男女交際・結婚に関する意識調査」
 ネットモニター(18-34歳 表示は30代前半のみ、サンプル10304)

次のような関係を恋愛対象にしていますか

	A	B	C	D	E	(1つ以上つけた人)
30代前半未婚男性	3.3	12.5	13.8	9.8	13.7	(30.8)
既婚男性	4.1	11.8	5.8	13.1	14.6	(28.4)
未婚女性	7.2	16.1	12.0	0.8	0.8	(27.1)
既婚女性	2.2	13.9	7.4	1.4	1.1	(19.9)

34

▶バーチャル関係調査(2019年1月、首都圏20-39歳)
(よくある、どちらかといえばある、の合算 %)

	男性	女性
1. ペットの親密な関係を抱く	48.0	50.7
2. キャバクラやメイドカフェに行く	10.1	2.3
3. アイドルやスターに恋愛感情	14.3	18.0
4. アニメのキャラクターに恋愛感情	12.2	11.6
5. 性的サービス業に通う	16.3	1.4
6. ポルノをみる	83.0	14.3

35

5. バーチャルで格差を埋める時代に

日本 バーチャルな世界を作り出す技術
競争の中で磨かれる

世界(東アジア諸国)に輸出を始めている

(次のスライド、山田が調査した、香港のメイドカフェ)

* 日本に来る留学生

バーチャル文化に惹かれ(日本語を学んで)来日

アニメ、ゲーム、アイドル、腐女子(BL)、ドラマー。

*** 経済先進国だから来日という人はめったにいない**

36

香港のメイドカフェ（女僕珈琲屋）(2015年)



宅男晩晩去Cafe:女僕制服令我好Warm

37

6. 江戸時代化する？令和ニッポン

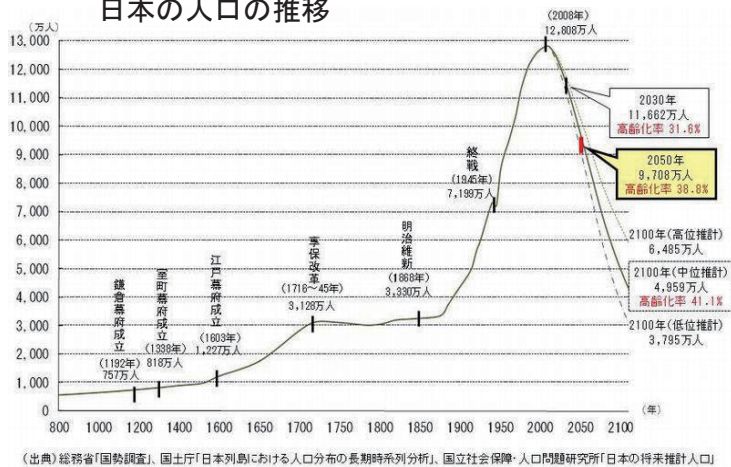
日本で、人口減少した時期

1. 平安後期 (1000-1200)
2. 江戸後期 (1720-1850)
3. 平成後期 (2007—
2021年、63万人の自然減(出生81万人 死亡14
4万人)

38

38

6. 江戸時代化する？令和ニッポン 日本の人口の推移



39

6. 江戸時代化する？令和ニッポン

江戸時代(1600-1868)(享保の改革1716-40の分岐点)

前期 1600-1720ごろ

応仁の乱以降の戦乱の終結、農業の拡大・商業の発達

人口の大幅増加 1200万人 → 3100万

高度経済成長

元禄文化(理想の時代 - インテリ文化)

後期 1740ごろ - 1868(明治維新)

人口の停滞、減少 - 経済成長の鈍化を人口減で埋める

文化・文政文化 (バーチャルの時代 庶民文化)

40

40

6. 江戸時代化する？令和ニッポン

江戸時代後期(文化文政以降)
身分制、階層固定化 (士農工商)
親の仕事を継ぐ、親と同じ職の相手と結婚
鎖国 反グローバル 海外へと言う夢もない
どこかに移動するのに都市に行って下層庶民になるしかない
戦争(内戦)もない、平和な社会
出世の機会ない

* 人生の先が見えてしまう、その日暮らしの人が増大

41

41

6. 江戸時代化する？令和ニッポン

バーチャル文化(夢の世界に浸る)の発達

- * 歌舞伎、吉原、黄表紙、旅行、浮世絵
- * バーチャルな世界に浸る
男性—花魁、女性—歌舞伎役者への憧れ
浮世絵 当時のマス・メディア(ブロマイド、ポルノ、旅行ガイド)
- * 富くじ(宝くじ)、ギャンブルの流行(一攫千金)

日常世界の平凡さをバーチャルな
世界への耽溺で埋め合わせる

42

The similarity between the late-Edo era and Heisei Japan
Japan 'Yukaku (licensed prostitutes district)'



43

7. 「幸せに」衰退する日本社会

* 停滞(衰退)する豊かな社会

= 全員がリアルの中で希望(仕事で努力すれば評価される、結婚して子どもを育て豊かに生活する)がもてるわけではない社会

* 希望格差から分断へ

①リアルな社会で、なんとか、「豊かな生活」をкаろうじて維持できる人々 → プチ幸せで満足

②リアルな社会で希望がない人 →バーチャル世界に墮ちる
疑似仕事や疑似家族で満足する人々の増大

44

44

7. 「幸せに」衰退する日本社会

* 危険な兆候

バーチャルでも希望を埋められない人

自分を大切に思ってくれる人がバーチャルでもない

現世への「絶望」 何をしても報われないと思う人の行き場

* 原理主義的新興宗教に陥る人たち

オウム真理教から統一教会 「来世の幸せ」を約束

* 無敵の人

秋葉原事件(ネット世界でも反応がない)

45

45

7. 「幸せに」衰退する日本社会

* 社会が分断して、結果的に衰退していく日本

しかし、そこで生活する人はリアルであれ、バーチャルであれ、それなりに満足している。ごく一部の人が暴走する。

* バーチャル文化の発達は、救いか？

* 昭和に確立した日本的制度を変革し、リアルの中で希望をもてる社会になるか？

そのためには、「日本的雇用慣行」「戦後型家族(性別役割分業型)」から脱却しなければならない

46

46

ご清聴ありがとうございました



47

47